

Economic Indicators

発表日: 2024年5月31日(金)

鉱工業生産(2024年4月)

～事前予想を下回る結果。自動車の回復ペースは不透明～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

		鉱工業生産						資本財(除く輸送機械)		消費財			
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷			
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比		
23年	1月	▲ 3.6	▲ 3.0	▲ 2.8	▲ 3.1	▲ 0.3	2.5	2.1	9.9	▲ 9.5	▲ 5.5	▲ 1.8	0.8
	2月	3.4	▲ 0.5	3.9	0.7	0.6	1.5	▲ 1.2	6.0	6.2	2.4	4.4	4.3
	3月	0.4	▲ 0.8	0.5	0.1	0.2	2.2	0.9	8.6	▲ 0.7	0.2	0.6	5.8
	4月	0.3	▲ 0.8	▲ 0.5	▲ 1.4	1.3	6.0	1.4	12.7	▲ 0.8	▲ 3.4	0.4	4.1
	5月	▲ 1.0	4.1	▲ 0.3	3.8	0.6	7.2	1.0	8.8	1.2	2.8	1.1	9.9
	6月	0.9	▲ 0.1	0.8	0.7	0.0	5.7	▲ 0.6	9.8	▲ 0.7	▲ 1.3	▲ 1.0	5.1
	7月	▲ 1.4	▲ 2.6	▲ 1.3	▲ 2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	▲ 2.9	▲ 10.9	▲ 0.4	3.4
	8月	▲ 0.4	▲ 4.7	▲ 0.2	▲ 3.1	▲ 1.1	3.0	▲ 0.5	9.2	0.3	▲ 14.3	▲ 1.1	1.7
	9月	0.1	▲ 4.5	0.6	▲ 2.4	▲ 0.9	0.0	▲ 1.2	4.3	▲ 1.3	▲ 13.2	1.4	2.4
	10月	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	▲ 0.2	4.1	1.0	▲ 6.8	1.4	7.2
	11月	▲ 0.6	▲ 1.6	▲ 0.8	▲ 1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	▲ 2.0	▲ 8.5	▲ 1.3	3.0
	12月	1.2	▲ 1.1	1.6	0.2	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 2.3	2.3	6.0	▲ 2.9	▲ 0.1	1.0
24年	1月	▲ 6.7	▲ 1.5	▲ 7.5	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 1.8	2.6	0.8	▲ 4.9	2.7	▲ 5.2	1.3
	2月	▲ 0.6	▲ 3.9	▲ 0.7	▲ 4.7	0.6	▲ 1.7	▲ 5.6	1.9	▲ 4.1	▲ 5.1	▲ 1.9	▲ 2.5
	3月	4.4	▲ 6.2	4.7	▲ 6.8	1.0	▲ 1.0	7.6	6.8	7.9	▲ 4.2	4.1	▲ 6.0
	4月	▲ 0.1	▲ 1.0	0.2	▲ 0.8	▲ 0.5	▲ 2.7	▲ 1.1	0.1	▲ 0.2	3.0	1.4	1.0
	5月	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6月	▲ 5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 24年5月、6月は、製造工業生産予測調査の数値

○事前予想を大きく下回り、2か月ぶりの低下

経済産業省から公表された24年4月の鉱工業生産は前月比▲0.1%となった。事前の市場予想(前月比+1.3%)を大きく下回る結果である。自動車生産の正常化が進むことで、4月も好調さが維持されるという多くの事前予想に反し、小幅ながら2か月ぶりの低下となった。

同時に公表された製造工業予測指数では、5月が前月比+6.9%、6月が同▲5.6%と一進一退の見込みとなった。予測指数の上振れバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でみると、5月は同+2.3%の上昇見込みとなる。仮に5月が経産省試算値、6月が予測指数どおりとして先延ばしすれば4-6月期は前期比+2.2%となり、1-3月期の落ち込み(同▲5.1%)を取り戻すには至らない。後述の通り、足元での世界的なハイテク需要回復の兆しにより底堅い電子部品・デバイス等が下支えとなるものの、自動車生産の持ち直しペースは依然として不透明感が強く、鉱工業生産は4-6月期も力強さは期待できないだろう。

○自動車の持ち直しペースは不透明

今月の低下寄与が大きい項目としては、汎用機械(前月比▲4.8%、前月比寄与度▲0.28%pt)、輸送用機械(前月比▲1.1%、前月比寄与度▲0.18%pt)が挙げられる。

特に輸送用機械は、認証不正問題による生産停止の緩和により3月に前月比+12.6%と大きく上昇していたが、4月はふたたび低下に転じることとなった。先行きについて、生産予測指数によると、5



月にはふたたび生産が大きく回復（前月比+14.5%）した後、6月には反発減（前月比▲4.8%）となる見込みであり、均せば持ち直しが続くともみていだろう。仮に予測指数通りとなれば、5月には問題発覚前（23年10-12月期）の水準を取り戻す計画となっている。もっとも、4月は前月の生産計画（前月比+6.1%）を下回っており、5月以降も下振れリスクは小さくない。生産能力の正常化のペースには依然として不透明感が強く、4-6月期は一旦持ち直すものの、力強さは期待できないだろう。

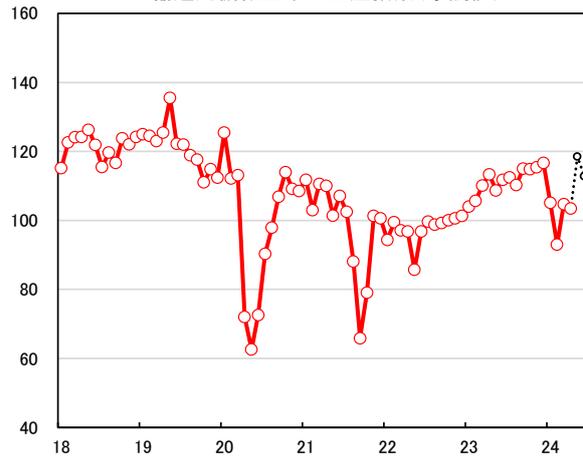
他方で、今月の上昇寄与した項目に、生産用機械（前月比+4.1%、前月比寄与度+0.37%pt）が挙げられる。このところのハイテク需要の回復により、半導体製造装置等を中心に急増が続いている。もっとも、足元は一時的な上振れとみたほうがよさそうだ。生産予測指数によると5月も前月比+7.9%と伸びが続いた後は、6月に同▲20.7%もの低下が計画されている。足元の急増は海外の受注増が押し上げているとみられ、当面は極端な動きに注意が必要だろう。

また、このところ復調の兆しがみえる電子部品・デバイスは、4月は前月比▲0.7%と3か月ぶりに低下したが、前月（同+9.2%）までの上昇からの反動減としては小幅に留まっており、堅調な動きが続いている。先行きについて、生産予測指数によると5月は前月比+5.6%、6月は同▲5.2%と一進一退の見込みだ。もっとも、このところは実現率もプラスが続いており（3月+2.8%、4月+1.2%）、先行きも世界的なハイテク需要の回復は今後も続くとも予想されることから、均せば緩やかな持ち直しが続くだろう。

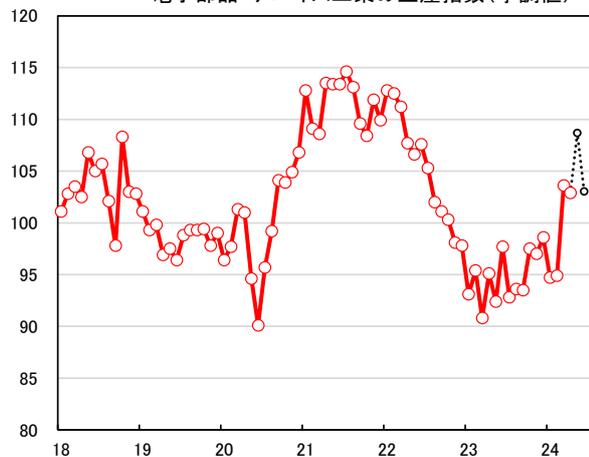
(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



(20年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(出所)経済産業省「鉱工業指数」(注)黒波線部分(24年5月、6月)は、製造工業生産予測調査の数値で先延ばしたもの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。